令和7年度 愛宕小学校学力向上プラン ~チーム愛宕(全職員で)一人も取り残さず子供を伸ばす~

【教育目標】あたたかく たくましい心と体をもち 互いに学び合う児童の育成 ~よく学びいつも元気でやさしさいっぱい~

【合言葉】「よく学びいつも元気でやさしさいっぱい」よいや!

【めざす児童像】○あたたかい心をもつ優しい子 ○たくましく生きる元気な子 ○互いに学び合う賢い子

【めざす職員像】〇子供と共に学び、共に汗を流す教職員(本校の強み) 〇人間性が豊かで信頼される教職員(誠実) 〇常に課題意識をもち、学び続ける教職員(研修)〇心身ともに健康で協力し合う教職員(働き方改革)

【めざす学校像】○子供が行きたい楽しい学校 ○保護者が安心して通わせたい学校 ○地域が応援したい自慢したい学校 ○職員の意欲があふれる働きがいのある学校

【学力調査の結果】

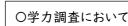
※3・4年生は市の平均、5・6年生は県の平均と比較し、5ポイント以上の差に ついて、有意差(高い・低い)があると判断

	3 年		4 年		5 年		6年	
Ī	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	高い	高い



【確かな学力におけるめざす児童の姿】

「分かりたい」「できるようになりたい」という思いをもち、 ➡積極的に聞いたり自分の考えを伝えたりし、すすんで学びに 向かう児童



【本校児童の課題】

○学力調査において、記述の問題の正答率の向上が見られる。書くことに対 して主体的に取り組む姿がある。

○「聴き合い」から自分の考えを広めたり、深めたりすることができるものの、

- 相手意識をもち、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」には課題がある。 ・情報と情報の関係を理解したり、結び付けて考えたりすることが苦手。
- ・家庭学習の取組に個人差があり、個別に支援を要する児童が多い。



【子供の伸ばすための視点】※数値化(赤)

視 点	具体的な取組	視 点	具体的な取組	
	一人も取り残さず、すべての児童が学習の主体者となる授業改善を目指す校内研修主題:「児童一人ひとりが学習の主体者になる授業改善を目指して~問題解決学習における聴き合いを通して~」 【視点 I】協同を必要とする問題についての研究(愛合課題) 【視点 2】問題解決学習における学び合いの効果的な位置づけと形態の選択(聴き合い)	4 基礎基本の徹底	 ○読書の充実を図る→図書室の活用、学校司書との連携 →年間低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊を目標とする。 ○デジタマ・キュビナの活用(週3回以上) ○愛(I) チャレンジの実施(週1回以上) ○交流学級担任と特別支援学級担任との連携の強化(1日1回児童の情報交換) 	
I 授業改善	【視点3】学んだことを自分の中に再構築するための「振返り」の研究研究の柱:①「聴き合う関係」づくり②「愛合課題」の設定の工夫③振返りの充実の全体授業・部会授業における全員授業のICTを活用する授業のわかる喜びが実感できる授業(R6児童による学校評価94%)	5 特別支援教育の視点	○文派子級担任と特別支援子級担任との連携の強化(「日下回光量の情報文操) ○幼稚園・保育園・中学校との連携、スクールカウンセラーなどの関係機関との連携の強化 ○個別の支援計画と指導計画の作成 ○コグトレの実施(週 回以上)	
2 学習習規律の徹底	 ○学習規律における掲示物(ハンドサインによる発表の仕方・振返り(わがとも)) ○学習用具のチェック表(学期ごとのチェックで3月までに95%そろうようにする。) ○愛宕スタンダード(学習規律)の徹底(学び方の基礎・基本) (児童・教師共に前期・後期2回アンケートを実施し、意識の向上を図る) 	6 地域・家庭との連携	 ○保護者との情報共有の充実 ○家庭と連携した「生活リズムチェックシート」の取組(各学期 回) ○家庭学習の手引き作成・配布(R6保護者による学校評価79%) ○家庭、地域と連携→大人総がかりでの児童の健全育成(パワーアップ教室・にこにこ教室) 	
3 学級経営	 ○日常的な「いのちの教育」、実践の積み重ねによる互いに認め合うことができる「支持的風土がある学級づくり」(道徳科の充実と道徳的実践力の育成) ○児童に自尊感情・自己肯定感や達成感を味わわせる取組と称賛 ○心の天気アンケート実施。必要な児童に対しての個人面談(月 回) 	7 生活指導	○5つのあ「あいさつ・あそび・あるきかた・ありがとう・あとかたづけ」の指導の継続・徹底 (毎月の生活の目標設定) ○あはは運動の浸透	